

浅ノ川総合病院
初期臨床研修プログラムⅣ
(2021 年度)



Asanogawa General Hospital

医療法人社団 浅ノ川

浅ノ川総合病院

初期臨床研修を目指す方々へ（病院長）

金沢は北陸の小京都とも呼ばれ、名園の兼六園をはさみ、東の浅野川と西の犀川との2つの流れに囲まれた緑多い風情のある土地です。四季の美しさに加え、都会の良さ、田舎の良さを合わせもつような街で、食文化は全国でも最も豊かなものとなっています。人口50万足らずの地方都市ですが加賀藩以来の学都でもあり、地方には珍しく金沢大学と金沢医科大学の2つの大学病院が存在し、その他多数の公的、私的病院がお互い連携し切磋琢磨する環境のなか、金沢の医療水準はおのずと高いものとなっています。

浅ノ川総合病院は、金沢循環器病院（循環器専門・184床）・金沢脳神経外科病院（脳外科専門・220床）・桜ヶ丘病院（精神科専門・496床）・千木病院（老人専門・500床）・田中町温泉ケアセンター（老人保健施設140床）の4つの専門病院と老人保健施設を有する「医療法人社団 浅ノ川」の中核病院であります。紹介率30%を超える地域に根ざした病院機能評価機構認定病院であり、最先端の医療機器を備えている病院としても知られ、将来皆様方がどの分野にでも対応できるよう研修プログラムを作成し卒後研修医の教育も行っています。医療人としての人格を養い、幅広くプライマリ・ケアを学ばれ、第一線の医療現場で活躍できるよう、また研究への道へもスムーズに入れるよう指導いたします。当院で基礎的な臨床能力を学ばれてはいかがでしょうか。

浅ノ川総合病院初期臨床研修プログラムⅣ

研修理念

指導医のもとに、医師としての人格を養い、将来の専門性にかかわらず、医学・医療の社会的要望を認識し、日常診療で頻繁に遭遇する負傷や疾患に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な知識・技能および態度を身につける。

1. プログラムの名称

浅ノ川総合病院初期臨床研修プログラムⅣ

2. プログラムの目的と特徴

1) 目的

本プログラムは、将来プライマリ・ケアに対処しうる第一線の臨床医、あるいは高度の専門医のいずれを目指すにも必要な診療に関する基本的な知識・技能および態度を修得するための2年間のプログラムである。また臨床研修に専念させるため、当院研修プログラムで定められていない病院での診療を禁止とする。

2) 特徴

(1) 当院の特徴

- 1) 当院は、金沢市北部にある病床数 499 の民間病院である。高度な総合医療を実行し得る施設として診療実績を残している。
- 2) 地域医療においては地域医療連携室を設置して地域密着型医療を進めると共に、救急医療の分野でも地域医療に高く貢献している。
- 3) 図書室の充実（国内図書 7,643 冊、国外図書 3,905 冊、国内雑誌 50 種、国外雑誌 15 種）に加えて、図書室にインターネットによる文献検索システムを構築している。
- 4) 令和2年2月に日本医療機能評価機構による施設認定 3rdG:Ver. 2.0 を受けた。（4月27日現在、審査中）

(2) 指導医体制

臨床経験の豊かなスタッフを豊富に有しており、研修に際しては指導医と研修医とのマンツーマン方式を採用する。

(3) 期間割について

一年次は、必修科目である内科 24 週以上（6 ヶ月間）、救急部門 12 週以上（3 ヶ月間（内、麻酔科 4 週を含む）、小児科 4 週以上（1 ヶ月間）、産婦人科 4 週以上（1 ヶ月間）、精神科 4 週以上（1 ヶ月間）、外科 4 週以上（1 ヶ月間）の 13 ヶ月の内、12 ヶ月間行う。二年次は、1 年次の未修必須科 4 週間以上（1 ヶ月間）並びに地域医療 4 週間以上（1 ヶ月間）と、残り

の10ヵ月間には選択科目の研修を行う。選択科目研修では、研修医が自主的に研修に取り組めるよう、興味のある診療科を中心に研修を行い、すでに将来の専門分野を決めている研修医のため、専門性の高いプログラムを用意している。(期間は1ヵ月単位)(期間割表、診療科は以降を参照)

(4) プログラムの運用について

プログラム責任者を長とする研修医集会ならびに指導医集会を設けてプログラムに対する研修医・指導医の意見を臨床研修委員会に的確に反映させることにより、発展的なプログラムの運用を図る。

3. 研修指導体制と研修参加施設の概要

1) 臨床研修教育責任者

荒木一郎(浅ノ川総合病院長)

2) プログラム責任者

光田幸彦(臨床研修委員長、臨床研修センター長、脳神経外科部長)

3) 研修施設とその概要

浅ノ川総合病院(病床定数499床、20診療科)

詳細は病院概要を参照(資料1)

桜ヶ丘病院(病床定数496床、3診療科)責任者:岩崎真三

心臓血管センター-金沢循環器病院(病床定数184床、5診療科)責任者:池田正寿

金沢大学附属病院(病床定数822床、19診療科)責任者:吉崎智一

金沢医科大学病院(病床定数835床、28診療科)責任者:飯沼由嗣

金沢医療センター(病床定数554床、27診療科)責任者:太田和秀

松原病院(病床定数455床、7診療科)責任者:山口成良

青和病院(病床定数130床、3診療科)責任者:青木達之

浦添総合病院(病床定数302床、23診療科)責任者:米盛輝武

医王病院(病床定数310床、8診療科)責任者:駒井清暢

珠洲市総合病院(病床定数199床、13診療科)責任者:浜田秀綱

公立宇出津総合病院(病床定数188床、17診療科)責任者:長谷川啓

市立輪島病院(病床定数199床、13診療科)責任者:品川誠

公立穴水総合病院(病床定数177床、11診療科)責任者:島中公志

公立つるぎ病院(病床定数152床、15診療科)責任者:高澤和也

下地第2脳神経外科(病床定数19床、7診療科)責任者:木村聡

乙部町国民健康保険病院(病床定数52床、3診療科)責任者:村瀬英也

長崎県上五島病院(病床定数186床、15診療科)責任者:神田聡

※当院・各協力病院の指導医名はREISを参照

4) プログラムに参加する診療科

浅ノ川総合病院の診療科(詳細は6ページ参照)

心臓血管センター-金沢循環器病院:循環器内科、心臓血管外科

桜ヶ丘病院：精神科

金沢大学附属病院：小児科、脳神経内科、皮膚科

医王病院：小児科

金沢医科大学病院：全標榜科

金沢医療センター：小児科

松原病院：精神科

青和病院：精神科

浦添総合病院：内科、救急部門

珠洲市総合病院、公立宇出津総合病院、市立輪島病院、公立穴水総合病院、公立つるぎ病院、下地第2脳神経外科、乙部町国民健康保険病院、長崎県上五島病院の8病院は地域医療

4. 研修計画

1) 期間割と研修医配置予定

(1) 研修期間 2021年4月に開始、2年間とする。

(2) 期間割（基幹型病院である当院にて、12ヵ月以上の研修を行う。）

一年次研修：

内科 24週以上（6ヵ月間）、救急部門 12週以上（3ヵ月間（内、麻酔科 4週間を含む）、小児科 4週以上（1ヵ月間）、産婦人科 4週以上（1ヵ月間）、精神科 4週以上（1ヵ月間）、外科 4週以上（1ヵ月間）の13ヵ月の内、12ヵ月を研修し、主としてプライマリ・ケアの基本を習得する。精神科の研修は金沢医科大学病院・桜ヶ丘病院・松原病院・青和病院、小児科の研修は金沢大学附属病院・金沢医科大学病院・金沢医療センター・医王病院での研修のいずれかを選択する。研修科目の順序については、研修医の希望により変更が生じる可能性がある。なおこの変更は臨床研修委員会において承認を得る。

二年次研修：

1年次の未修必須科 4週間以上（1ヵ月間）並びに地域医療 4週間以上（1ヵ月間）、残りの10ヵ月は選択科目をローテートし研修する。地域医療研修では、外来研修並びに在宅医療を各1週間行うこととする。選択研修期間にて、到達目標の未了が生じた場合の研修補足期間に当てることができる。選択を希望する科目については、研修開始前に各自の希望を臨床研修委員会に提出し、同委員会で承認を得る。選択科目については、必修科目との重複を認める。二年次における研修科目の順序については、研修医の希望により変更が生じる可能性がある。変更の希望は3ヵ月前までの申し出とする。なおこの変更は選択科目の承認と同時に臨床研修委員会において承認を得る。また、金沢医科大学病院では全標榜科において最大3ヵ月の選択が可能。

一年次

12 週以上 (3 月)	12 週以上 (3 月)	12 週以上 (3 月)	4 週以上 (1 月)	4 週以上 (1 月)	4 週以上 (1 月)
内科	救急 (内、麻酔科 4 週間を含)	内科	外科	産婦 人科	小児 科

二年次

4 週以上 (1 月)	4 週以上 (1 月)	10 ヶ月
地域 医療	精神 科	選択科目

選択科目：内科、腎臓内科、脳神経内科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、皮膚科、救急部門（以上、浅ノ川総合病院）
内科・救急部門（浦添総合病院）
精神科（桜ヶ丘病院、松原病院、青和病院）
循環器内科、心臓血管外科（心臓血管センター金沢循環器病院）
小児科（医王病院、金沢大学附属病院、金沢医療センター）
脳神経内科、皮膚科（金沢大学附属病院）
全標榜科（金沢医科大学病院）
地域医療（珠洲市総合病院、公立宇出津総合病院、市立輪島病院、公立穴水総合病院、公立つるぎ病院、下地第2脳神経外科、乙部町国民健康保険病院、長崎県上五島病院より選択）

2) 2 年次での 10 ヶ月の選択科目での具体例を 3 例紹介する。

(例 1) 糖尿病 内分泌コース (6～11 ヶ月間)

脳神経内科、腎臓内科、循環器内科（金沢循環器病院）、眼科、形成外科を選択研修し、糖尿病の合併症である網膜症、腎症、血管合併症、下肢閉塞性動脈硬化症や糖尿病足に対するケアを横断的に学ぶ。当院の透析センターは石川県最大の規模であり、金沢循環器病院での研修で、虚血性心疾患、閉塞性心疾患、閉塞性下肢動脈硬化症など豊富な症例と質の高い診療ができる。

(例 2) 定位放射線手術コース (1～3 ヶ月間)

当院ではガンマナイフ、ノバルスを用いて、頭蓋・脊椎病変、鼻咽喉部癌、肺癌、肝癌、前立腺癌等に定位放射線手術、強度変調型放射線治療を行っている。年間 600 例の症例数は世界のトップクラスに位置し、卓越した治療効果を報告している。本コースは放射線のメスといわれる定位放射線手術に特化した研修を行い、外科医の感性に基づく新世代の放射線治療を体験できる。

(例 3) 神経疾患マスターコース (2～3 ヶ月間)

当院では、脳神経内科医と脳神経外科医が協力してこれらの神経疾患の治療

を行っており、てんかん手術、パーキンソン手術などを行うことのできる先進的な脳神経センターとして知られている。本コースは神経診断学、脳神経内科的治療の習得、実践のみならず、脳神経外科手術も体験できる神経疾患完結型の研修が特徴である。

3) 研修目標と研修内容

臨床研修の必修化に伴って提示された「臨床研修の到達目標」を基盤として作成した臨床研修カリキュラム(資料 2)に従った臨床研修を通してプライマリ・ケアの基本を修得すると共に、その後の進路を的確に判断する能力を身につける。

4) 研修医の勤務時間

月～金：午前 8 時 30 分から午後 5 時(休憩 1 時間)

土：午前 8 時 30 分から午後 0 時 30 分

時間外勤務は基本無し(但し、指導医が必要とした場合、勤務を命じ、時間外手当を支給する。)

5) 教育に関する行事

(1) オリエンテーション：研修最初の 1 週間に院内規定、施設設備の概要と利用法、文献と病歴の検索方法、健康保険制度、医事法規などについての説明がある。

(2) 研修医が属している各科の回診、カンファレンス、抄読会に出席し、発表、報告する。また、病院全体の講習会、セミナーなどにも参加する。

内科研修時の例：①脳神経内科顧問による講義(毎週火曜)

②内科系カンファレンス(毎週水曜)

③内科・外科オープンカンファレンス・キャンサーボード(隔月第 1 水曜(奇数月))

④医局全体勉強会(隔月第 1 水曜(偶数月))

⑤CPC(不定期)

⑥病診連携勉強会(不定期)

⑦院内開催講習会・セミナー(多数) など

6) 指導体制

研修医 1 名につき指導医 1 名が指導にあたる。必要に応じて専門医の指導を受ける。

5. プログラムの管理運営体制

臨床研修委員会を毎月開催し、研修計画の進行状況を検討する。選択必修科目で選択しない場合の到達目標達成に向け、当直時や救急研修時に補うため、研修ノートを毎回臨床研修委員会時に提出させ、状況の確認をする。また研修医集会、指導医集会を通じて研修医、指導医の意見を臨床研修委員会に反映させ

る。年度末に開催される臨床研修委員会において、その年度の研修および指導内容を評価し、それに基づいて次年度の研修計画を立て、これを公表する。

6. 研修評価

- 1) 研修医に対する評価：研修医は、各科ローテーション終了時に研修医用評価表に沿って自己評価を行う。一方、各指導医は研修終了時に指導医用評価表により評価を行う。2年間のプログラム終了時には臨床研修委員会が研修目標達成を認定する。
- 2) 指導医に対する評価：研修医は、各科ローテーション終了時に指導医評価表に記入してプログラム責任者に提出する

7. プログラム修了の認定

①2年間で90日超の休止期間がないこと。②研修医・各指導医は、到達目標について達成したかどうかの評価を行い、プログラム責任者はこれについて確認をする。(特に必須項目については、厳しく確認する)③病院群臨床研修委員会にて、①②の報告及び臨床医としての適性を評価し、委員全員の承認にて、修了を認定とする。プログラム修了の認定を得られた研修医に対して、病院長(臨床研修教育責任者)は、このプログラムを修了したことを記した「修了証書」を授与する。

8. プログラム修了後のコース

初期臨床研修修了後、希望者は浅ノ川総合病院で引き続き正職員として採用する。また、他の研修病院や大学病院での研修を希望する者には、責任を持ってお世話する。

※過去の修了者進路状況：金沢大学第2内科・整形外科・眼科・放射線科、金沢医科大学衛生公衆学・整形外科・肝胆膵内科、石川県立中央病院麻酔科、富山大学眼科、当院神経内科、他、北陸3県以外の病院など。

9. 研修医の処遇

身分：常勤医

健康管理：定期健康診断を年1回以上実施。

保険：社会保険あり、医師賠償責任保険は個人加入。

医療事故への対応：診療にかかわる医療事故の主たる責任は主治医が負うが、研修医は受持医として、重大事故発生の場合は、直ちに指導医に連絡して指示を受ける義務がある。

研修手当：一年次 手当 510,000 円 (月額、諸手当込)、賞与 300,000 (年額)

二年次 手当 550,000 円 (月額、諸手当込)、賞与 400,000 (年額)

宿 舎：なし (希望者には斡旋します)

休 日：日祝日、第2土曜日、年末年始、盆休、創立記念日、季節休暇、
有給休暇等、(詳細は就業規則を参照)

研修医室：2室あり

自主的な研究活動に関する事項：

学会・研究会への参加費用は年2回までは病院負担。それ以外は自己負担。
別途、手技取得のための講習会受講料は病院負担。

10. 募集定員

4名(総定数8名)

11. 出願手続きと資料請求先

出願受付開始 2020年7月1日(水)

出願締め切り 2020年8月14日(金)

出願書類 初期臨床研修申込書(下記への申し込みにより、募集要
項に同封する。当院のホームページを参照)、履歴書(市
販)、卒業証明書または卒業見込証明書、医師免許証(取
得者のみ)

選抜方法および期日 面接：第1回：2020年8月25日(火)(予定)
第2回：2020年9月1日(火)(予定)
(第2回は第1回が不都合な者に限る)
マッチングシステムを採用

資料請求・出願先 浅ノ川総合病院 医療秘書室 坂本
〒920-8621 金沢市小坂町中 83 番地
TEL 076-252-2101 FAX 076-252-2102
HP <http://www.asanogawa-gh.or.jp/>
e-mail info@asanogawa-gh.or.jp

資 料 1

浅ノ川総合病院概要

病院の紹介

1951年の開設以来、地域密着型の高機能総合病院として、地域住民に信頼される医療の提供が目標。現在は機能の異なる5つの病院と1つの老人保健施設を運営する「医療法人社団 浅ノ川」の基幹病院として、また協力関係施設のケアセンター・グループホーム・特別養護老人ホーム・看護学校や診療所などと連携しながら、地域住民へ医療・福祉・介護の複合的な提供体制を構築している。入院環境は急性期医療を担う病院であると同時に高齢化する地域の需要にも配慮し、医療療養型や介護療養型をあわせ持つケアミックス型の病院として運営。今後は近隣の病院・医院と設備の共同利用などをさらに推し進め、総合的な地域医療の展開を目指している。

1. 浅ノ川総合病院の概要

1) 病床数 499 床（一般 339 床、療養 160 床）

2) 入院患者数	一般病床	177.0 人/日（令和1年度実績）
	平均在日数	14.5 人/日（令和1年度実績）
	呼吸器病床	35.0 人/日（令和1年度実績）
	療養病床	154.4 人/日（令和1年度実績）

外来患者数 525.6 人/日（令和1年度実績）

手術総数 4,771 件/年（令和1年度実績）

3) 医師数 常勤 68 名、非常勤 8.0 名（常勤換算） 令和2年4月現在

4) 診療科（標榜科数 20 科）

内科、精神科、脳神経内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、腎臓内科、心臓血管外科、歯科

その他標榜外

臨床研修センター、救急外来、透析センター、外来化学療法センター、人工呼吸センター、定位放射線外科センター（γナイフ、ノバルス）、PET-CT画像センター、産科センター、リハビリテーションセンター、結石破碎治療センター、内視鏡センター、健診センター、療養センター、超音波センター、糖尿病内分泌センター、てんかんセンター

2. 学会認定施設

- ・ 日本内科学会認定医教育関連病院
- ・ 日本高血圧学会専門医認定施設
- ・ 日本糖尿病学会認定教育施設
- ・ 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設
- ・ 日本消化器病学会専門医修練施設
- ・ 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医指導施設

- ・ 日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・ 日本消化管学会胃腸科指導施設
- ・ 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・ 日本整形外科学会認定医研修施設
- ・ 日本形成外科学会認定医研修施設
- ・ 日本神経学会専門医制度教育関連施設
- ・ 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
- ・ 日本脳神経外科学会専門医認定制度訓練施設
- ・ 日本脳卒中学会認定研修教育施設
- ・ 日本てんかん学会てんかん専門医研修施設
- ・ 日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設
- ・ 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・ 日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・ 日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・ 日本腎臓学会研修施設
- ・ 日本透析医学会教育関連施設
- ・ 日本麻酔科学会認定病院研修施設
- ・ 日本医学放射線学会放射線科専門医訓練機関
- ・ 日本核医学会専門医教育病院
- ・ マンモグラフィ検診施設画像認定施設
- ・ 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・ 日本リハビリテーション医学会研修施設
- ・ 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
- ・ 日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士認定規則実地修練認定教育施設
- ・ 日本栄養療法推進協議会NST稼働施設

3. 診療科の概要

診療科名	常勤医師数	指導医数	1日平均 外来患者数	年間 入院患者数	平均 在院日数
内科	18	11	109.7	1732	17.8
精神科	0	0	7.2	0	0
脳神経内科	4	3	30.7	350	14.6
循環器内科	0	0	11.3	0	0
小児科	2	0	7.3	117	5.0
外科	4	4	26.8	663	12.6
整形外科	3	2	52.9	566	22.5
形成外科	1	1	11.9	44	14.1
脳神経外科	3	3	26.8	687	15.9
皮膚科	1	1	26.1	231	8.9
泌尿器科	3	1	31.0	192	12.3
産婦人科	2	2	14.7	208	11.2
眼科	2	2	31.9	495	5.5
耳鼻咽喉科	2	1	25.0	137	7.8
放射線科	3	1	5.8	0	0
麻酔科	4	1	0.2	0	0
リハビリ科	3	0	0.8	32	1.4
腎臓内科(透析)	4	2	79.0	248	22.4
合計	59	35	-	5702	-

※1 令和1年度実績より

※2 医師数は常勤医師数(研修医は除く)のみ(令和2年4月現在)

4. 病院の沿革

昭和 26 年 11 月	浅ノ川病院 開設
昭和 35 年 7 月	桜ヶ丘神経サナトリウム 開設
昭和 44 年 1 月	浅ノ川総合病院 開設
昭和 51 年 4 月	卯辰山記念病院 開設
昭和 55 年 5 月	金沢脳神経外科病院 開設
昭和 58 年 10 月	桜ヶ丘神経サナトリウム 観法寺町に新築移転
昭和 62 年 6 月	浅ノ川総合病院 小坂町に新築移転
平成 2 年 1 月	浅ノ川総合病院別館(現在の東館) 新築
平成 3 年 3 月	医療法人社団松窓会 設立、柳橋ケアセンター 開設
平成 3 年 5 月	松窓会 金沢循環器病院 開設
平成 8 年 3 月	柳橋ケアセンター 田中町に新築移転 田中町温泉ケアセンターに改称
平成 9 年 7 月	ガンマナイフ導入
平成 10 年 4 月	卯辰山記念病院 千木町に新築移転 千木病院に改称
平成 11 年 10 月	医療法人社団浅ノ川 設立 5 病院 1 施設を統合
平成 11 年 11 月	浅ノ川総合病院 西館新築
平成 12 年 4 月	居宅介護支援事業所 設置
平成 13 年 9 月	浅ノ川総合病院 東館新築
平成 16 年 9 月	定位放射線外科センター 設置 日本第 1 号機となる「ノバリス」による治療を開始
平成 17 年 3 月	財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価 Ver.4 認定
平成 17 年 9 月	PET-CT 画像センター 設置 北陸初となる「PET-CT」導入
平成 18 年 2 月	MRI 棟新築 より高度な画像診断を実現する 3.0 テスラ MR 装置を北陸初導入
平成 18 年 3 月	臨床研修病院に指定
平成 19 年 5 月	人工呼吸センター(東館 4 階)設置 正面駐車場に別館 完成
平成 19 年 10 月	7 対 1 看護配置の実施
平成 20 年 7 月	回復期リハビリテーション病棟(東館 5 階)設置
平成 22 年 5 月	財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価 Ver.6.0 認定
平成 23 年 1 月	介護療養病棟を医療療養病棟に転換
4 月	石川県地域がん診療連携推進病院に指定
平成 24 年 4 月	金沢市内初となる 320 列 CT 装置 導入
8 月	急性期病棟の一部病床に亜急性期病床を設置
平成 25 年 4 月	あさのがわ訪問リハビリ・訪問介護ステーション設置

5月	てんかんセンター設置
平成25年11月	超音波センター設置
平成26年10月	地域包括ケア病棟(本館6階)設置
平成27年5月	財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価 3rdG:Ver.1.0 認定
平成28年10月	地域包括ケア病棟(本館4階)設置
平成30年4月	石川県てんかん診療拠点機関として認定
4月	結石破碎装置更新
10月	ガンマナイフ装置更新
令和2年2月	財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価 3rdG:Ver.2.0 受審(4月27日現在、審査中)

資 料 2

初期臨床研修カリキュラム

各診療科共通

研修目標

病棟・外来・救急業務を通じて、医師として人格を育成し社会のニーズと信頼に応える医療の実践のために共通の基本的臨床能力・態度を修得する。また研修プログラムで定められていない病院で診療を行わず、当院の臨床研修に専念する。

研修内容

1. 患者および患者家族との良好な関係を形成するために患者の権利を尊重する。
2. 上級医師、指導医、コメディカルとコミュニケーションを通して良好な人間関係を構築する。
3. 病棟・外来・救急業務を通じて、患者・家族との信頼関係を築きながら、的確な情報収集ができるような医療面接を身につける。
4. 患者の問題点を正確に把握・整理して診療計画を立てることができる。
5. 医療安全への知識を深め、その確保に努力することができる。
ヒヤリ・ハット、医療事故、院内感染などに関心を示す。
6. 病診連携の実情を理解する。
7. 医療の社会的側面と文書作成
 - 1) 保険医療制度の遵守
 - 2) 入院時治療計画の作成
 - 3) 退院時要約の記載
 - 4) 退院時指導計画の作成
 - 5) 処方箋、指示書の記載
 - 6) 死亡診断書の記載
 - 7) 紹介状、返書の記載
 - 8) がん登録の記載
 - 9) 患者プライバシーの保護
 - 10) 患者家族とのインフォームドコンセント
 - 11) 剖検報告書の理解と評価
8. 症例検討会および研究会などでの発表
 - 1) 症例検討会で症例提示ができ、討論に参加できる
 - 2) 研究会などに症例発表ができ、討論に参加できる
9. 必須診療科以外に受講等を必須とする研修（院内外にて行う）
 - 1) 院内感染、性感染症等を含む感染対策研修
 - 2) 予防接種等を含む予防医療研修
 - 3) 虐待への対応研修
 - 4) 社会復帰支援についての研修
 - 5) 緩和ケアについての研修

- 6) アドバンス・ケア・プランニング（ACP）研修
- 7) 発達障害・思春期精神科領域についての研修
- 8) 薬剤耐性菌についての研修
- 9) ゲノム医療についての研修

10. 下記の院内チーム活動に積極的に参加し、チーム医療を学ぶ。

- 1) 感染制御チーム
- 2) 緩和ケアチーム
- 3) 栄養サポートチーム
- 4) 認知症ケアチーム
- 5) 退院支援チーム

以下、プログラムの詳細についてお知りになりたい方は当院医療秘書室・坂本までご連絡ください。別途、プログラム冊子を郵送させていただきます。